豊臣秀長菩提寺「春岳院」に関する勉強会（ガイド研修）

■新中町にある「春岳院」は、高野山真言宗で開基は鎌倉時代との寺伝。当初は東光寺と称していたが、100 万石大守である秀長の菩提寺となってからは、戒名「大光院殿前亜相春岳紹栄大居士」から現在の「春岳院」となった。元禄 12 年（1699）1 月 26 日の大火でこの寺は類焼している。現本堂は正徳 5 年（1715）の再建で秀長の位牌や肖像画などが多く残されています。

今回は、主にご住職の法話に基づく春岳院に関する勉強会でした。

参加：ガイド 24 名、観光協会 2 名

（行事）1 月 22 日　秀長公、祥月命日法要

4 月 22 日　春季大納言祭など

●豊臣秀長画像（1540～1591）

天下人秀吉を支え、家臣の人望を広く集めたと伝えられる秀長の丸みを帯びた威厳のある堂々とした風格は、まさに大和大納言の名にふさわしい。

●御朱印箱

秀長の政策による城下町の自治活動のシンボルというべき「御朱印箱」が現存。「箱本制度」と呼ばれる町の治安、消火・防災活動、伝馬の内容、箱本の順番及び十三町の同業商家が詳細に書かれた古文書などが伝わる。

●豊臣秀長公木像

平成元年、多数の市民の浄財により、桂材寄せ木造、風格ある彩色による木像が安置されています。

制作は奈良教育大　小川清彦教授による力強い情熱あふれる力作である。

南無大師遍照金剛の唱和から法話が始まる。

ざっくばらんで楽しい春岳院 26 代目藪中義弘師の法話に感謝！

構成/金澤　写真/岡本、佐藤

文責/浅井